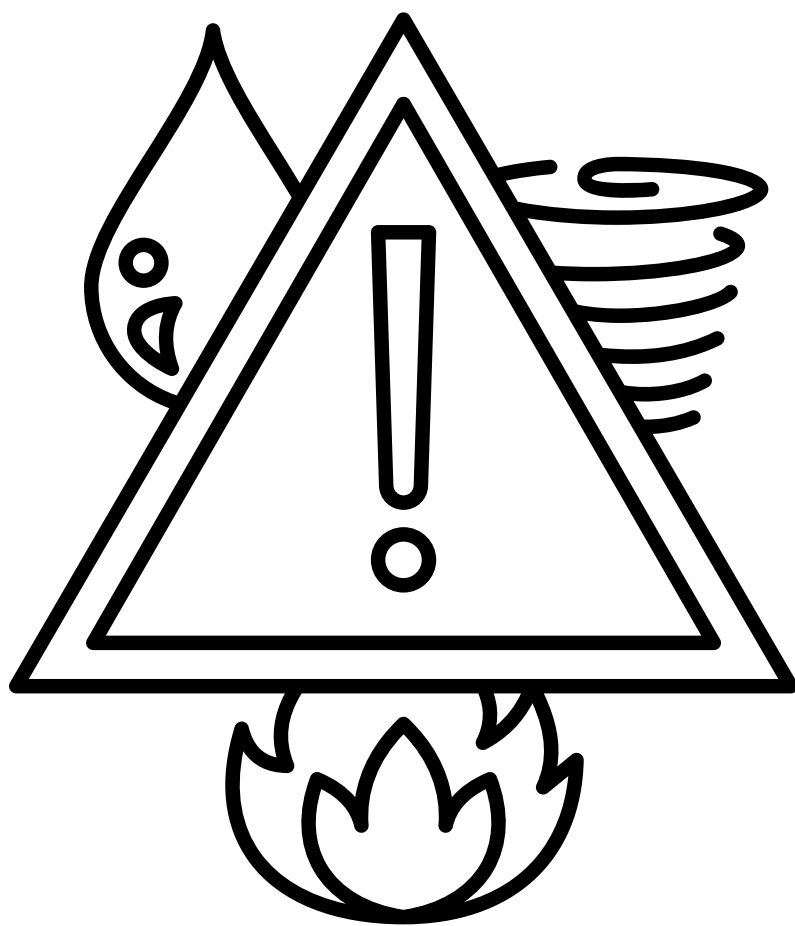


障がい学生等の 災害時対応 ガイドブック



郡山女子大学・短期大学部
障がい学生支援室
管財部 監修

目次

- ① 災害時対応フローチャート・・・ 3
- ② バリアフリーマップ・・・ 4
- ③ 避難経路・・・ 4
- ④ 障がい別の配慮事項・・・ 7
- ⑤ 車椅子を押すときの注意点・・・ 15

災害時対応フローチャート

大地震発生

安全の確保

※肢体不自由：ヘルメットをわたして頭部を保護

※発達・精神障がい：パニックが起きないように配慮

火災なし

※避難**不要**

火災発生

※避難**必要**

避難時の注意点

- ①非常放送の指示に従い、建屋ごとに定められた避難場所に分散避難する
 - ※車椅子使用者が避難可能な経路を確認
 - ※視覚・聴覚障がい者の情報保障
 - ※発達・精神障がい者のパニック等の防止
- ②教職員は学生が慌てて出口や階段等に殺到しないよう分散避難させる
 - ※車椅子使用者の避難経路は限られる。ぶつかった際にはお互い怪我をする危険性がある
- ③避難時にはエレベーターを使用しない
 - ※車椅子使用者が2階以上にいる場合の避難方法を学生と確認しておく
- ④学生が逃げ遅れていないか確認する
 - ※情報が得られなかった、どのように逃げたらいいかわからなかった等の理由で逃げ遅れることがないように注意する

避難

※視覚・聴覚：情報保障

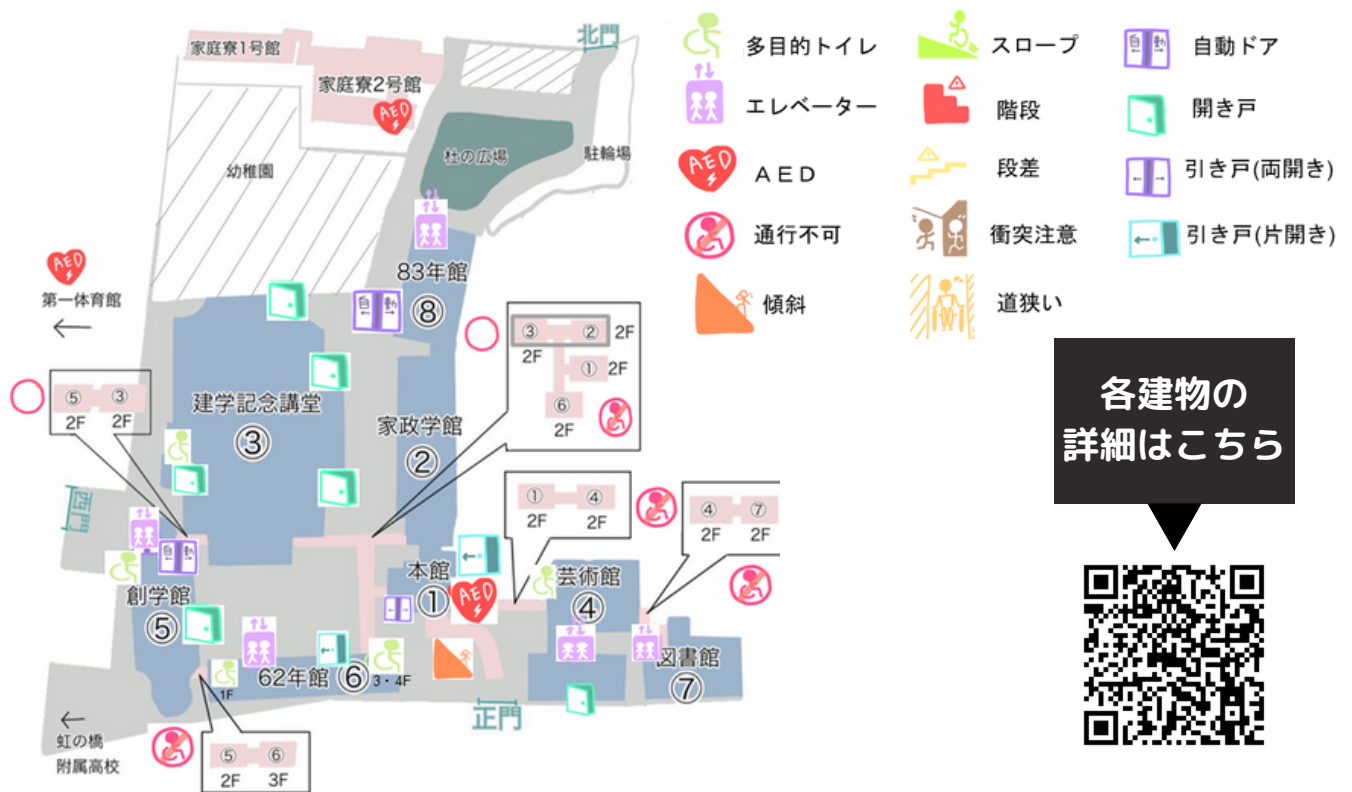
※要援護者の避難支援

安全確認

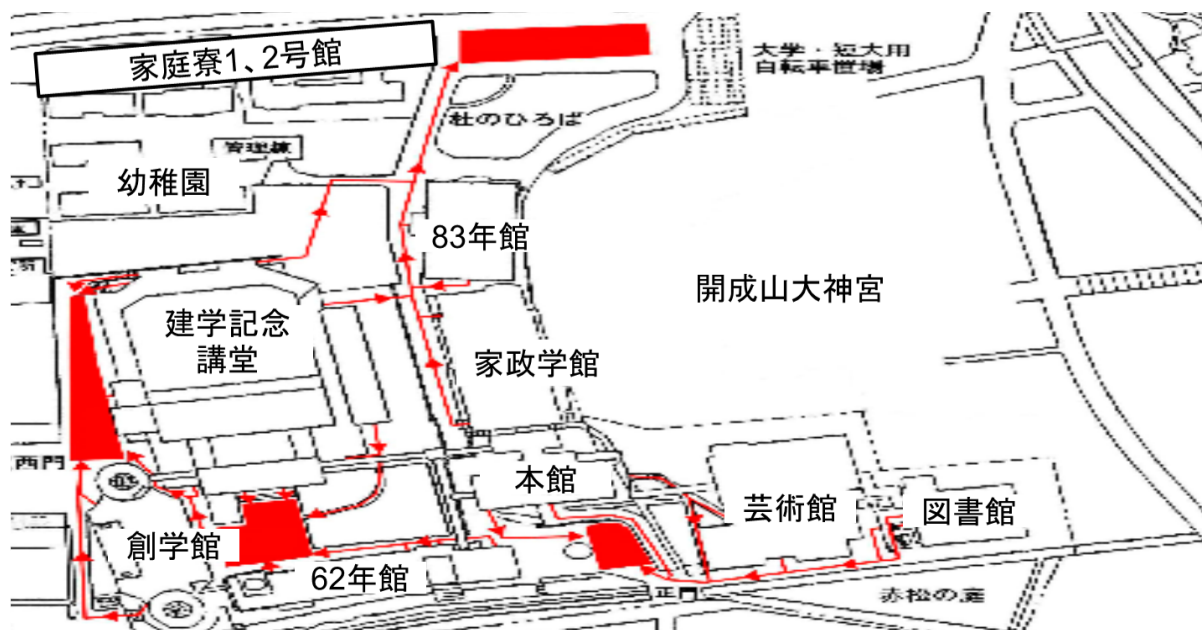
逃げ遅れ、怪我の有無など

バリアフリーマップ

全体図



避難経路



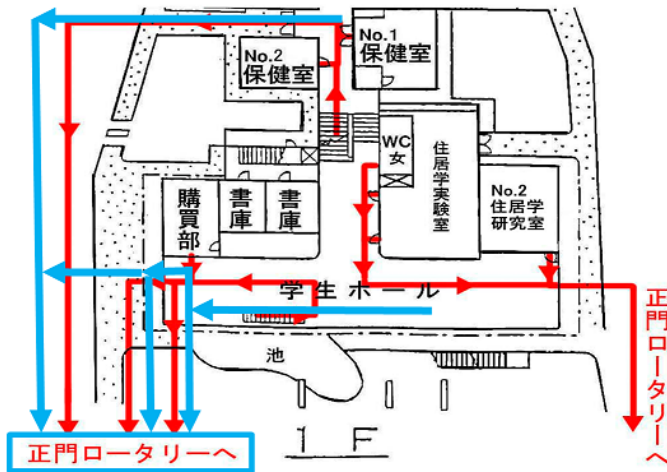
避難時の注意点

- 避難経路は1階のみを記載してあるため、2階以上の場合は火元から遠い階段を使う
- 車椅子使用者が創学館2階以上にて、フェリーチェが火元の場合は、渡り廊下から本館に向かい、本館スロープから避難するのが安全かつ支援者の負担が少ない (p.8参照)

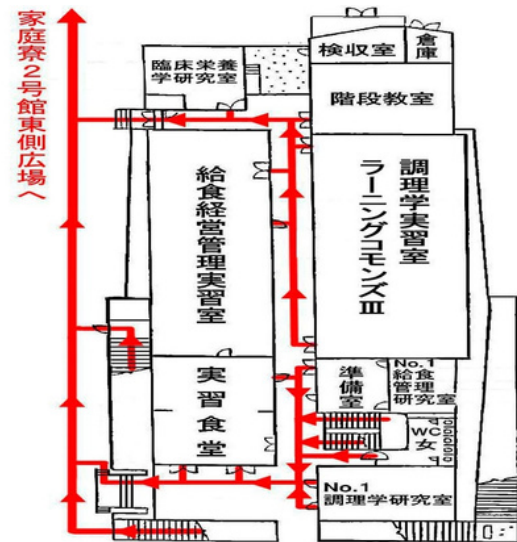
赤矢印：一般経路

青矢印：バリアなし経路

本館 1 階



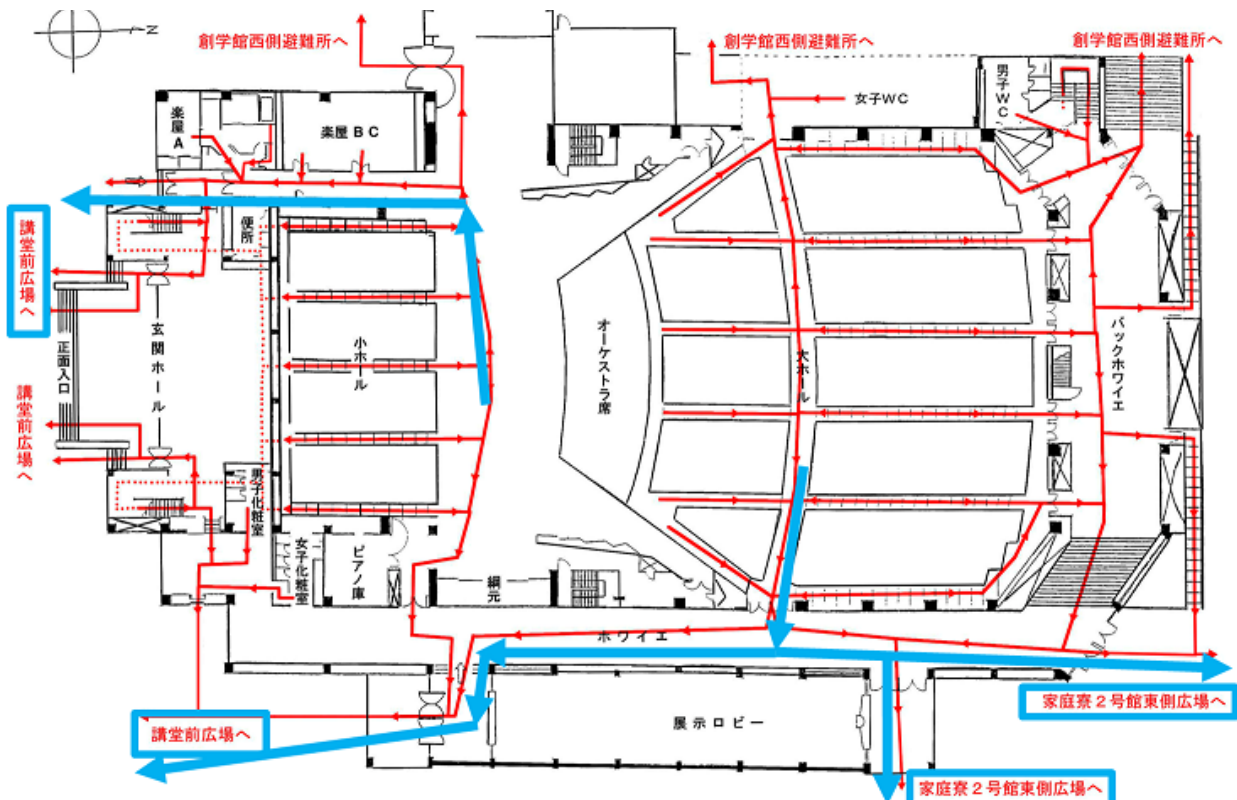
家政学館 1 階



※バリアなし経路なし

段差をこえて本館に移動する

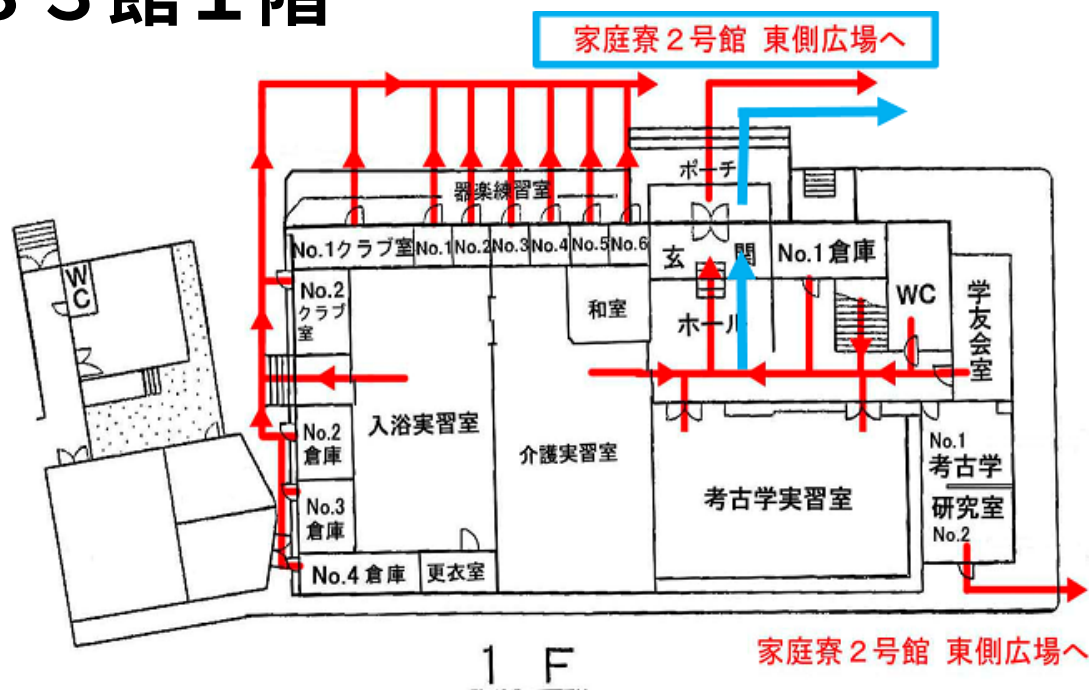
建学記念講堂 1 階



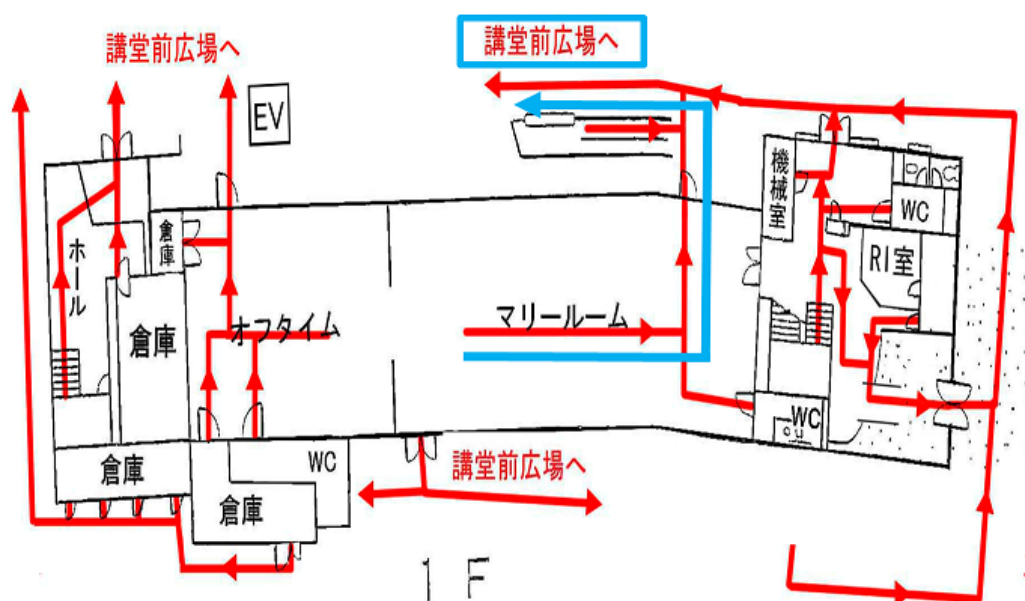
8 3 館 1 階

赤矢印：一般経路

青矢印：バリアなし経路



6 2 年館 1 階



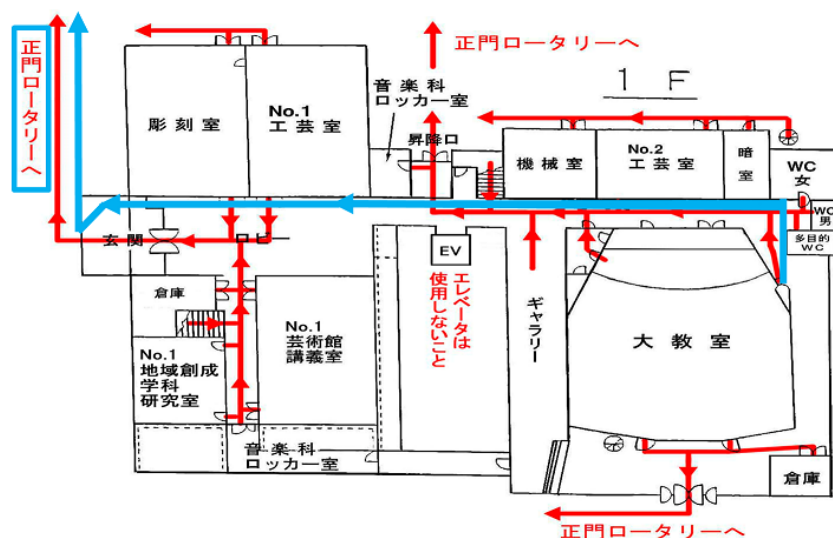
 2 階以上の場合はスロープを使用



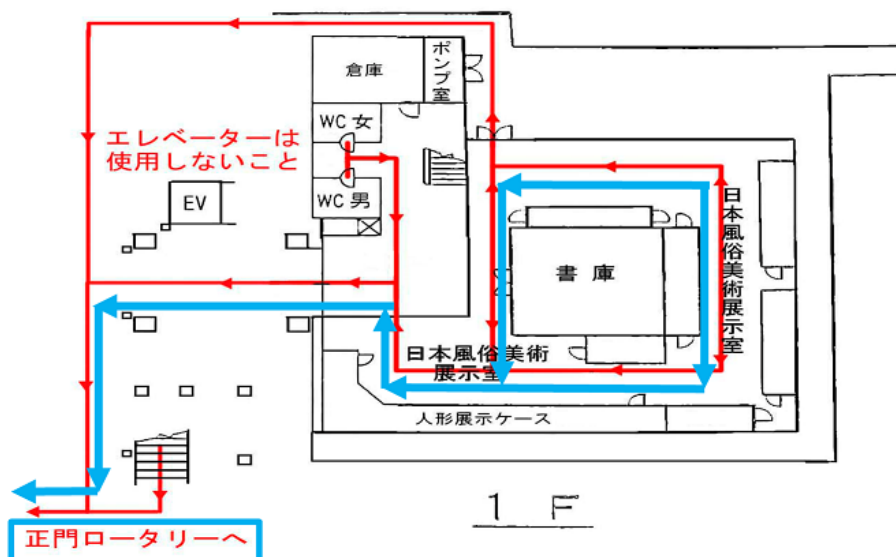
スロープが右に傾いているため、支援者がしっかりと車椅子を支える

芸術館 1 階

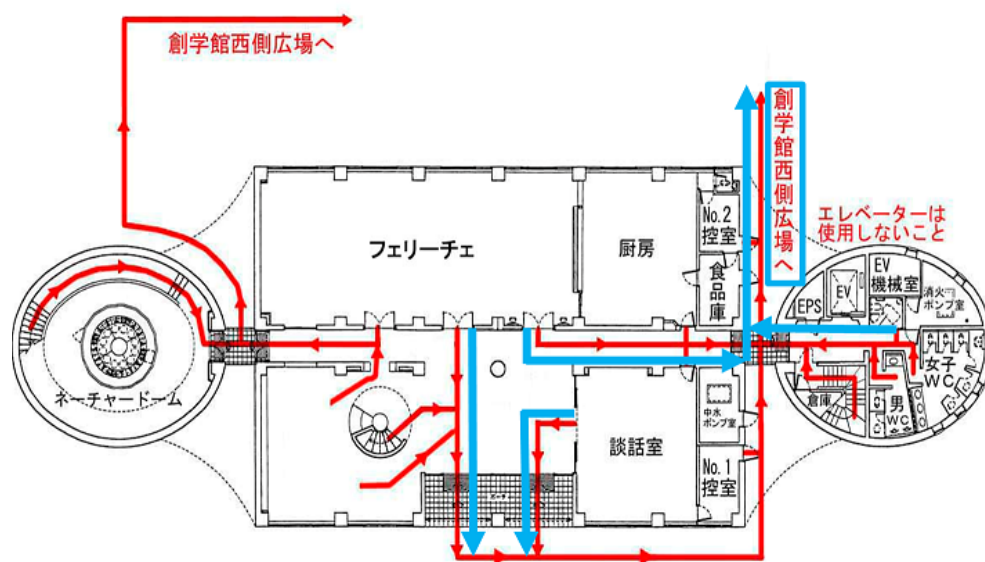
赤矢印：一般経路
青矢印：バリアなし経路



図書館 1 階



創学館 1 階



創学館 4 階ペルルから避難する場合



① 2 階渡り廊下まで階段をおりる



骨折しやすい、痛み
のある所は触らない

② 渡り廊下から本館に向かう



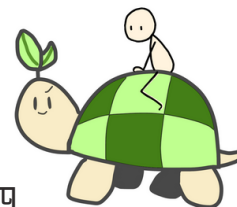
車椅子があると
平らな場所は押して
逃げられて楽

③ 本館からスロープで広場へ



段差を下る・
下り坂は車椅子を
後向きにする

肢体不自由

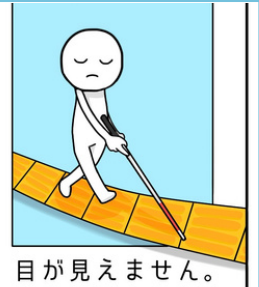


四肢や体幹に何らかの姿勢や運動の障害・欠損等があり、そのため日常生活に不自由の続いている状態を言います。四肢とは上肢（手・腕）と下肢（足・脚）を指し、また体幹とは胴体を意味します。

災害時の対応（留意点）	✓
○安全な避難ルートの確認	
○介助者の人数と体制、人手の確保	
○日常使用している車椅子について理解する 重さやたたみ方、車椅子ごと階段を降りる際の持ち手	
○避難に必要な器具の確認 担架や車椅子の配置	
○身体を抱えてもらう、あるいは担架に移乗するなどして避難する場合、身体の痛みや骨が折れやすい箇所、股関節の曲がりなど、気をつけておくことはないか医療機関と確認し、支援者に伝えられるようにする	
○関係者間の連絡手順を確認する 発災時の安否確認、避難後の保護者や医療機関等との連絡	

視覚障がい

視力や視野等の視機能に障害があり、見ることが不自由又は不可能になっている状態です。眼鏡やコンタクトレンズを使って矯正しても、十分な視力を得ることが難しいです。



災害時の対応（留意点）	✓
○安全な避難ルートの確認 自力避難は可能か、点字ブロックの有無、障害物がないか等	
○誘導して避難する体制、人手の確保	
○緊急時の放送による音声情報	
○大学から発信される情報が確実に伝わるようにする メールの場合だと読めない場合がある	
○安否確認の方法を確認する 電話やメールなど一番連絡がとりやすい方法を決めておく	
○視覚に障がいがあることを周囲に伝え掲示や配布された文字情報も得られるようにする（情報保障）	
○関係者間の連絡手順を確認する 発災時の安否確認、避難後の保護者や医療機関等との連絡	

聴覚障がい

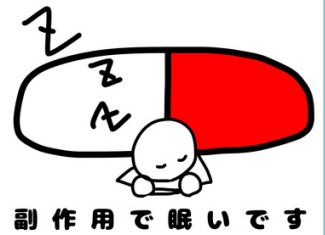
音をきく、または感じる経路になんらかの障害があり、話し言葉や周囲の音が全くきこえなくなったり、ききづらくなる状態のことを「聴覚障がい」と言います。



災害時の対応（留意点）	✓
○安全な避難ルートの確認	
○支援が必要な場合、誘導して避難する体制、人手の確保	
○緊急時の放送以外の情報保障 大学から発信される情報が確実に伝わるようにする	
○コミュニケーションツールの確保 筆談用のペンやメモ帳、モバイルバッテリーの準備	
○安否確認の方法を確認する 一番連絡がとりやすい方法を決めておく	
○聴覚に障がいがあることを周囲に伝え、 音声以外の情報保障ができるようにする	
○関係者間の連絡手順を確認する 発災時の安否確認、避難後の保護者や医療機関等との連絡	

病弱・身体虚弱

病気（慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患）や身体虚弱の状態が継続し、医療又は生活規制を必要とする状態です。



災害時の対応（留意点）	✓
○安全な避難ルートの確認	
○支援が必要な場合、誘導して避難する体制、人手の確保	
○災害時の行動の仕方について確認する。 パニックにならないように手順を確認しておく 例．友人や教職員と避難したいか、 または集団から離れて避難したいか	
○服薬の管理 災害時に管理が不安な場合、アドバイザー、 障がい学生支援室、保健室に事前に伝えておく	
○障がいがあることを周囲に伝え、助けを求める ヘルプマークなどを日常的に携帯し、周囲に提示する	
○関係者間の連絡手順を確認する 発災時の安否確認、避難後の保護者や医療機関等との連絡	

発達障がい

生まれつき認知やコミュニケーション、社会性、学習、注意力等の能力に偏りや問題を生じ生活に困難をきたす障害です。



災害時の対応（留意点）	✓
○安全な避難ルートの確認	
○支援が必要な場合、誘導して避難する体制、人手の確保	
○災害時の行動の仕方について確認する。 パニックにならないように手順を確認しておく 例．友人や教職員と避難したいか、 または集団から離れて避難したいか	
○服薬の管理 災害時に管理が不安な場合、アドバイザー、 障がい学生支援室、保健室に事前に伝えておく	
○障がいがあることを周囲に伝え、助けを求める ヘルプマークなどを日常的に携帯し、周囲に提示する	
○関係者間の連絡手順を確認する 発災時の安否確認、避難後の保護者や医療機関等との連絡	
○避難場所の集団行動の大きな音、避難通知音への対策 耳栓、耳当て、サングラス、アイマスクなどを準備	

精神障がい

うつ病やパニック障がい等により、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態を精神障がいといいます。



災害時の対応（留意点）	✓
○安全な避難ルートの確認	
○支援が必要な場合、誘導して避難する体制、人手の確保	
○災害時の行動の仕方について確認する。 パニックにならないように手順を確認しておく 例．友人や教職員と避難したいか、 または集団から離れて避難したいか	
○服薬の管理 災害時に管理が不安な場合、アドバイザー、 障がい学生支援室、保健室に事前に伝えておく	
○障がいがあることを周囲に伝え、助けを求める ヘルプマークなどを日常的に携帯し、周囲に提示する	
○関係者間の連絡手順を確認する 発災時の安否確認、避難後の保護者や医療機関等との連絡	
○避難場所の集団行動の大きな音、避難通知音への対策 耳栓、耳当て、サングラス、アイマスクなどを準備	

備考：車椅子を押す際の注意点

①避難経路・場所を簡単に説明する

②どのように介助すればよいか確認する

※骨折しやすい、痛みのある部分は触らない

※車椅子の壊れやすい部分をもたない

※どのように避難するかあらかじめ確認しておき、学生も自分で要望を伝えられるように指導しておくことが大事

③停車時や右左折時には声をかける

※肢体不自由者はとっさに身体を支えたり転びそうになって受け身をとったりすることが困難な場合が多い

④段差・傾斜がある場合の注意点

上がる



下りる



ステッピングバーを踏んで前輪を上げる 下りは後ろ向きにして後輪から下りる

作成者（R5年度作成）

藤村 励子 （障がい学生支援室）

今崎 朱理 （生活科学科福祉コース4年）

平子 凛 （生活科学科福祉コース4年）

田中 彩希 （生活科学科福祉コース4年）

中島 ほのか （生活科学科社会福祉専攻3年）

バリアフリーマップの作成

郡山女子大学 家政学部 生活科学科

令和4年度「肢体不自由者の心理・生理・病理」受講生

障がい別配慮要請マークの作成

郡山女子大学 家政学部 生活科学科

令和5年度「肢体不自由者の心理・生理・病理」受講生

参考・引用文献

日本学生支援機構（2014）教職員のための障害学生修学支援ガイド

立命館大学（2020）障害学生等の災害時対応ハンドブック

画像：<https://www.ac-illust.com>